

外部評価委員：宮森 孝一 山内 栄一郎 赤熊 弥生 横田 慎一郎 太田 薫  
 報告書作成者：峯川一義

評価時期 令和4年3月

## 1 重点目標の評価

### 重点目標1「基礎的・基本的な学習内容の理解と確かな学力の定着」

- 「個に応じた授業展開の工夫」については、児童の95%以上学習に対する達成感を味わい、保護者も90%以上が満足感をもって回答しており、学校が教材・教具等を学習内容に応じた効果的に活用している様子が見られる。
- 「学習規律と児童の自発的に学習に向かう態度の育成」については、10%超の教員が要改善と回答している。児童の学習の様子を十分には見取れないコロナ禍の状況にあっては止むを得ない面もあるが、指導計画や指導体制を見直し、より一層効果的な指導の充実をお願いしたい。
- 「確かな学力の定着」については、教員、児童、保護者とも概ね満足する成果が挙げられていると思料する。学習指導の成果が「十分に達成」という回答が一層増えるよう、教職員一人一人が日々研鑽に励み一致協力した指導体制を構築することを期待する。

### 重点目標2「自他の生命を尊重する態度の育成」

- 「多様な価値観を受け入れる心の醸成」については、教員は十分に達成が約30%を含め95%を超えて達成と回答している。保護者も約82%が十分に達成あるいは達成としてはいるが、10%は分からないと回答している。この質問が求める具体的な児童の姿を保護者に示す必要がある。
- 「他者と協働して取り組む力の育成」については、教員は「十分に達成」が少ないものの回答者のほぼ全員が達成と回答している。保護者も90%超、児童は類似の質問に95%超と、この項目に対する教育活動の成果は学校として満足できるものであろう。

### 重点目標3「オリンピック・パラリンピック教育を通じた国際感覚の醸成と体力の向上」

- 「英語学習を通じた豊かな国際感覚の醸成」については、教員は100%肯定的な評価をしているが、保護者は「要改善」と「よく分からない」がどちらも10%を超え、合わせて約24%である。授業を参観した限りでは、学校は英語学習にしっかり取り組んでいるので、「国際感覚の醸成」された児童の姿が具体的に示されれば自ずと保護者の評価が上がってくるものと考えられる。
- 「すすんで運動に取り組める環境の整備」については、教員の回答からはコロナ禍にあつて現状に対応して可能な限りの取組を行ったものと推測できる。保護者は「よく分からない」を含め25%超が肯定的でない評価をしており、保護者の多様な期待にどう応じていくかが課題である。

## 2 今後の改善に向けた意見

- 保護者による評価で「よく分からない」が多いのは①地域を生かした教育活動や行事、②様々な奉仕活動の状況、③保護者や地域の教育活動への参加の順でいずれも20%近くある。これらの評価項目に対する学校の自己評価は否定的な評価がほとんどない。学校の教育活動や優れた取組を保護者や地域に周知、理解してもらえらる方法を再検討するとよい。
- 教員の評価で「改善を要する」が一番多かったのは、生活指導の「全教職員が目標を理解し、協力し合って指導に当たっているか」である。保護者の自由記述にも学習についてはあるが、「学級や担任よっての違い」が指摘されており、学校としての基本方針を押さえた上で教員の創意工夫を生かした教育活動の在り方の協議を深め、方針を示していくことが求められる。

## 3 その他

- 児童は「先生は悩みなどについて話しやすいか」に34%が、「学校に行くのが楽しいか」に20%超が否定的な回答をしている。一方「授業の内容はよくわかるか」には95%超が肯定的である。多感な思春期を迎える児童の相談相手が学校内に存在することの大切さという視点で、この問題の解決を図るよう引き続き取り組んでほしい。
- 校長の経営方針の冒頭の部分に「子どもにとって最大の教育環境は教員自身である。」と示されている。これを全教職員が心に深く刻み、日々の教育活動に取り組んでほしい。

